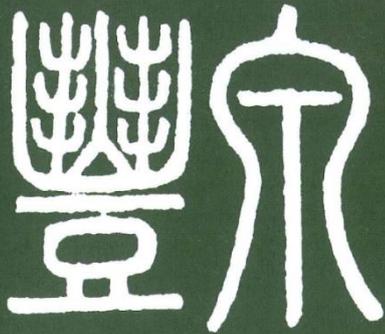


ほうせん



弘前大学附属図書館報
The Hirosaki University Library bulletin

2021.11

豊泉（ほうせん）とは 本学図書館が「汲めども尽きぬ豊かな知の泉であるように」との思いから、松原邦明名誉教授により名づけられました。（出典：明治9年『仏国学制』（文部省翻訳・出版）附録上巻「学校ニ於テ教フル所ノ学科ノ外ニ、又人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」）



特集：第7回附属図書館POPコンテスト受賞者発表

- 06 本との出会いを楽しむ〈第27回〉珈琲研究会の本棚 「自分らしく生きるということ」
(弘前大学人文社会科学部 上村観月さん)
- 07 こんにちは、図書館です！～先生インタビュー～（医学研究科教授 黒瀬顕先生）
- 08 本を持って出かけよう〈第2回〉～『弘前路地裏散歩』を持って～
- 09 図書館ショートストーリー「へば図書館さ行くべ」〈第4回〉
- 10 Library's Half Year
- 11 寄贈図書紹介
- 12 図書館員ちよこっとコラム&編集後記

No.54

POP コンテスト受賞者発表

私たちを待つ、『失格』の未来

富裕な家に生まれた主人公、葉成。孤独を抱え、本心と行動の乖離に苦しんだ人生を「人間、失格」と名付した。誰しもが抱え得るその孤独と乖離。次に『失格』となるのは貴方が、私か。

「人間失格」 太宰治

推しが燃ゆ

推しがいる全ての方向への一世。

推しが、炎ました。

この本に出会い良かった

あいつが、あいつと出会った瞬間。あいつが、あいつと出会った瞬間。あいつが、あいつと出会った瞬間。

紀見留和明

剣

汚穢が蔓延る現代に響く三島由紀夫の精神。「強く正しいものになるか、自殺するか」

三島由紀夫

自然がつくる不思議なパターン

なぜ銀河系が渦巻き形なのか？

アイリフアポルト 著

世界は、まさしく美しい。人間は世界を理解するために、好奇心を燃やして、未知の世界を探る。

異文化理解に最適！日本人よ、これがアメリカの笑いだ

異文化にこそ手紙を投げ込むのはハムスターに任せる

イロカをポコる5つの理由

ペーコンは真実の愛にも勝る

一度読んだら絶対に忘れない

世界史の教科書

山崎圭一

「82年生まれ、キム・ジョン」

韓国で136万部突破！そして映画化！

今秋、日本で上映決定！！

BTSのリーダーRMやRed Velvetのメンバーが本書に言及しk-popファンの間で大きな話題に！！

今、読むべき、旬の小説。

失われゆく仕事の図鑑

仕事はいつかなくなる。仕事はいつかなくなる。仕事はいつかなくなる。

「正しさ」とは「普通」とは何なのか

朝井リョウ 著

「正しさ」とは「普通」とは何なのか

あなたの余命は半年です。

最後の医者は桜を見上げて君を想う

二宮敦人

東畑開人 野の医者は笑う

心療内科の先生は笑う

英語で教える日本史

James M. Vardaman

【するだけで人生終了】

あなたが100%損をしている習慣ランキング

1位は、何気ないアノ行動。

知らないのはあなただけ、TOP 5%の技術。

創作集「女性」

太宰治

伊雄大 さよなら、男社会

男社会の呪いを自ら解いていくヒントはどこにあるのか

ザ・ソウル・オブ・くす屋

SDGsを実現する仕事

WHAT IS LIFE?

ポール・オース 著

竹内薫 訳

Sloth fur is a home for small creatures

スロースの毛皮は小さな生き物の家

ザ・ソウル・オブ・くす屋

SDGsを実現する仕事

日本人だけが知らない、世界で最も話されている名著

難読の殿堂、『ドン・キホーテ』



弘前大学附属図書館では、2015年より毎年、図書館の利用促進や読書推進を目的として POP コンテストを開催しております。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館・来館者数の減少とともに応募数・投票数も減少しましたが、今年度は昨年度の倍以上となる計 33 点の応募作品が集まりました。

作品はすべて該当図書と共に図書館本館の 2 階企画展示コーナーに展示されました。そして、来館者からのシール投票及び専用 Web ページからの Web 投票によって、全 7 作品の入賞が決定しました。(今年は得票数 6 位の POP が 2 つあったため、計 4 つの作品が佳作を受賞しました)

今回は、東北各県の地図と印象的な手書き文字で『サンドウィッチマンの東北魂』を紹介した理工学部 3 年引地愛美さんが大賞を受賞し

ました。優秀賞には、見る人に質問を投げかける形で興味を引き『世界を読み解く「宗教」入門』を紹介した医学部 2 年の佐々木慎一郎さんの POP が選ばれました。

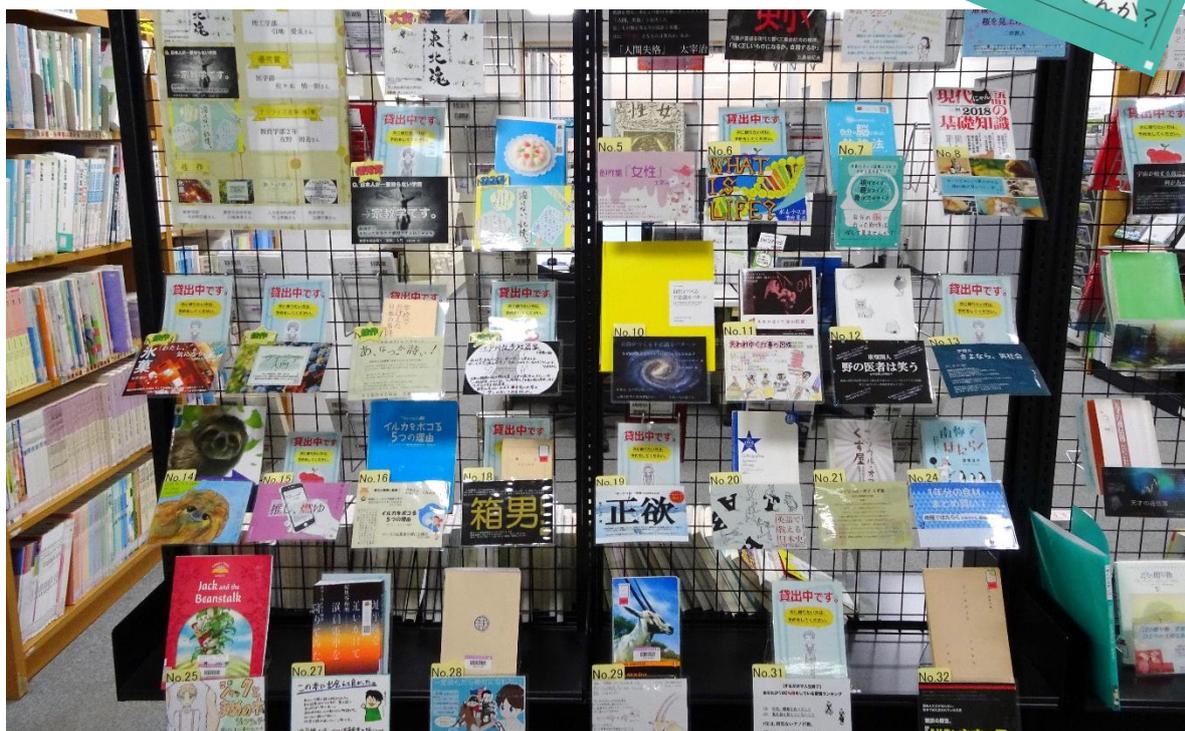
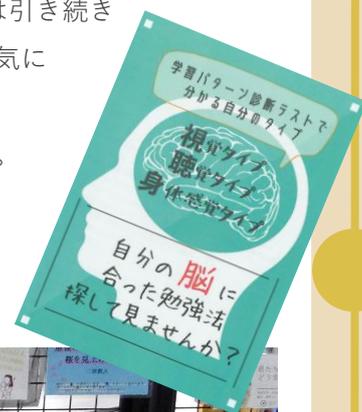
また、今回もサンライズ産業株式会社様にご協賛いただき、サンライズ産業(株)賞は、弘前のアイスクリーム屋も紹介されている『アイスの旅』を紹介し爽やかな色彩とアイスの切り絵で票を集めた教育学部 3 年の互野初美さんが受賞しました。

いずれの作品も Web 投票と館内のシール投票で多くの票を集め、展示されている図書は何度も貸出されていました。

今年も表彰式は行われませんでした。それぞれの受賞者には図書館職員から個別に表彰状と賞品の図書カードが手渡されました。

受賞 POP と該当図書は引き続き展示する予定ですので、気になる本がありましたらぜひ借りてみてください。

受賞作品紹介は
次のページから >>



受賞作品紹介&受賞者コメント

受賞者の方々から、この本を選んだ理由や、応募したきっかけや、POPについて工夫した点などについてコメントをいただきました。

大賞

理工学部3年 引地 愛美



この度、第7回 POP コンテストにおいて大賞をいただき、大変うれしく思います。

私がこの本を選んだ理由は、「東北が好き」だからです。弘前大学では日本各地、さらには様々な国出身の人が学んでいます。私は、この本を通して地元の魅力を知り、誇りを持つことの大切さを知りました。

皆さんも、この本から東北魂を感じつつ、また本を読むことで自分の地元の魅力を知るきっかけになればと思います。

優秀賞

医学部2年 佐々木 慎一郎



優秀賞を受賞することができ、大変光栄です。自分の作った作品が、見知らぬ誰かに評価されること以上に嬉しいことはありません。私は本の虫ではなく、他のコンテンツも消費します。ただ、その量質の充実度から本の選択を迫られることが多いのみです。私の運営します学生団体 CoCo-Cam(医カフェ)、Pros.(映像アート)、桜坂(坂道コピーダンス)と同様、自己表現・発見の場として、本がその媒介者であることを知っていただけたら幸いです。

サンライズ産業(株)賞

教育学部3年 互野 初美



この本は紹介していただき、知ったものです。あまりに素敵な本であるため、POP を描くことで、多くの人に手に取ってほしいと思いました。さわやかな印象の表紙、ページをめくれば色とりどりのアイスたち。ぱらぱらと写真を見ても良いし、心が惹かれた1ページを読むのも良い。弘前を知るための一冊として利用しても良いと思います。様々なかたちで、誰かの読書生活が豊かになるきっかけのひとつになれば、幸いです。

佳作



教育学部2年 今井 明日香

この度、佳作という賞をいただけたこと、大変嬉しく思います。私にとって「氷菓」は故郷のようなもので、何度も繰り返し読みたくなる小説です。今回はこの小説の魅力を皆様に伝えるべく、小説の中心となる古典部の部室をイメージし、彼らの活動している所を思いながらイラストを描かせていただきました。これをきっかけとして皆様に「氷菓」を読んでいただけたならば幸いです。本当にありがとうございました。



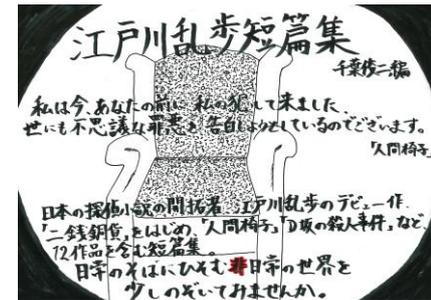
農学生命科学部4年 川嶋 真季

今回 POP コンテストに本書を選んだ理由は、ワインの発酵について授業で学んだことと、私自身よく料理にワインを使うことがきっかけです。本書を読み、ワインの奥深さや知識を得る事ができたため、皆さんにも是非読んで貰いたい!という思いから、POP コンテストに参加させていただきました。工夫したポイントは、ワインの原料となるブドウとこの本の概要を POP にする事で、本書を読みたくなるようにしたところです。是非一度読んでみて下さい。



人文社会科学部3年 村上 香織

詩の面白さを沢山の人に知ってもらいたいという思いで選びました。特に本書は教科書に掲載されていた作品で構成されているため、普段詩を読まない方にも親しみやすく手に取ってもらいやすいと考えたのです。詩は小説に比べると地味で難解だと思われがちですが、小説にはない抒情性、言葉の豊かさがあります。この POP が少しでも目を惹き、それを広める一助になれたのなら、私は嬉しいです。



教育学部3年 宮腰 夕貴

友人から今年も POP コンテストがあるという話を聞いて応募しました。短編集であれば、今までこの作家の本を読んだことがないという人にも手に取ってもらいやすいのではないかと思います、この本を選びました。どうしたらこの本の世界観を表現できるかを考えながら POP をつくりました。この本に興味をもってくれる人が増えたら嬉しいです。

本との 出会いを 楽しむ

第 27 回

珈琲研究会の本棚

「自分らしく 生きるということ」

上村 観月

岩手県立盛岡北高校卒業。2020年弘前大学人文社会科学部文化創生課程入学。
弘前大学珈琲研究会メンバー。



近年日常のあらゆるところで「多様性」という言葉を目にするようになりました。確かに学校から国際的な場まで、昔よりもひとりひとりの違いを尊重し、理解し合おうとする時代になったと感じます。しかし本当の意味での「理解する」とはどのようなことなのでしょう。今回はそんな多様性を謳う社会に向けた二つの作品を紹介します。

一作目は村田沙耶香の『コンビニ人間』です。この本は「普通」とは何かを考えさせられ、私も何度も読み返した作品です。自分らしく生きることは素晴らしいことですが、その生き方が周りから理解されない生き方だったら…。多くの人がある人を「普通ではない」と思うのではないのでしょうか。しかしそれは自分らしく生きることを認める「多様性」と矛盾しています。一方で自分とは違う価値観に出会ったとき、すべての価値観を理解できるかと言われれば、できないことがなんとも難しいところ。誰もが自分という基準を持っている限り、そこには数えきれない程の「普通」が存在します。そしてそれらとの相対的な比較によって普通か異常かが分けられるのが現代の実状です。その中で自分はどう生きるか、という問いをこの作品は投げかけています。普通とは。自分とは。そのような疑問を持っている人にぜひ読んでほしいです。

二作目は朝井リョウの『正欲』です。この本は私にとって「多様性」という言葉の意味をもう一度考え直すきっかけになった本です。

また、同時にかなり衝撃を受けた作品でもあります。私は今まで多様性という言葉や、それが尊重される動きに対し肯定的な印象を持っていました。しかしそれは自分が少数派でないから思えることであり、知らないところで排除されている人の存在をこの本から学んだのです。この本には社会的少数の人々がどんな思いを抱えて生きているかがリアルに描かれています。彼らの目線で見ると日常は狭く、非常に息苦しいものです。ですがこれは小説の中の話に留まりません。実際には知られていないだけで、身近にもこんな思いを抱えている人がいることは十分考えられるからです。

読み終わった後の心持は暗くなってしまうかもしれませんが、最後には何か残るものがありました。「多様性」について考える上で読んでよかったです。必ず思うはず。と必ず思うはず。と必ず思うはずです。

本当の意味での「理解する」とはどのようなことか。その答えは私もまだ見つかっていません。しかしこの二冊には答えのヒントが隠されている気がします。皆さんもぜひ手に取って考えるきっかけにしてほしいです。

(うえむら みづき)

本館所蔵

「コンビニ人間」
村田沙耶香 著

913.6
Mu59k

開架図書（本館2F）

「正欲」
朝井リョウ 著

913.6
A83se

開架図書（本館2F）



—先生は読書家であるとお聞きしました。学生時代はどのように図書館を利用されていましたか？

僕はそれほど読書家というわけではありません。大学の時は下宿の部屋が本だらけの人、サルトル、カミュ、ニーチェが並んでいる人なんてざらにいて、恰好いいと思っていました。図書館で借りて読書ということは人並みにはやりませんでした。一番記憶に残っているのは小学校の図書館で借りた「黒部ダム物語」、破砕帯を突破するところなどハラハラしました。高校の時ふとしたきっかけで亀井勝一郎を知り、高校の図書館に彼の全集があったのでよく読みに行きました。卒業写真集などに頼まれると「邂逅し開眼す」と書くのですがこれは亀井の「人生 邂逅し 開眼し 瞑目す」からもらったものです。弘前に来てから太宰にはまり、そして亀井と太宰が親友であったことを知りました。

両者の性格からは実に意外なのですがこう言う出会いも面白いですね。

—ご専門の病理学分野以外ではどんなジャンルの本をお読みになりますか？

長い間名著と言われていたものは読んでみたいです。幾つになってからでもいいと思っています。昨年は意を決して源氏物語(円地文子 訳)を通読しました。



研究室の一角にある黒瀬先生の蔵書。興味のある学生にあげたり貸したりしている。(和貴君という名前の学生には亀井勝一郎『大和古寺風物誌』をプレゼントしているとのこと。)

ものの見方という点で一番影響を受けたのは小林秀雄です。学生時代に全集を買ったので今でも折に触れて読んで勉強しています。昔意味がわからなかったことが今読むとすんなりわかるようになることもあります。

—先生にとって「読書」とはどんな意義を持っていますか？

論語に「学びて思はざれば則ち罔(くら)し、思ひて学ばざれば則ち殆(あやふ)し」とあります。「学ぶ」というのは広く知識を得ること、「思う」というのは自分で考えることです。正しい知識を得ずに狭量な自身のイデオロギーの殻に閉じ込められしかもそのことに気づい

こんにちは、図書館です！

～先生インタビュー～

医学研究科教授・黒瀬頭先生にお伺いしました。

ていない人が何と多いことでしょうか。かかる狭量は他人や社会を害することもあるし、個人の人生を考えれば、嘘を真と信じたまま死んでいくような愚だけは犯したくない(これらを含めて孔子は危しと言ったのだと思います)。一冊の本に書かれていることは僅かかもしれませんが、それを積み重ねていくうちに段々と自分の哲学が構成されていくのではないのでしょうか。そして本当の知識を得た人というのは必ず謙虚です。それは自分の存在が目前の大海に臨む一匹の蛙であることを認識できるからだと思います。大海を知った蛙は最早井の中の蛙ではありません。専門分野でもスポーツでも「本物」と言える人がその人の歩む道に対して謙虚なのはこういうことではないでしょうか。

—学生さんへ、図書館の活用方法について、アドバイスをいただけますか？

黒瀬 頭

KUROSE Akira



弘前大学医学研究科病理診断学講座 教授
弘前大学医学部附属病院病理診断科・病理部 科長

まさに邂逅の場だと思います。邂逅というのは努力に努力を重ねた結果ふと神様がほほえんで出会わせてくれるようなものかもしれません。学生の頃は人生や友人や恋愛に悩むことが多い筈。一生懸命悩んで考えていると必ず邂逅があると信じています。読書に興味がない人もふらっと立ち寄って眺めてみることをお勧めします。弘前大学の図書館には総合大学だけに様々な分野の本が並んでいます。きっと惹かれる本があ

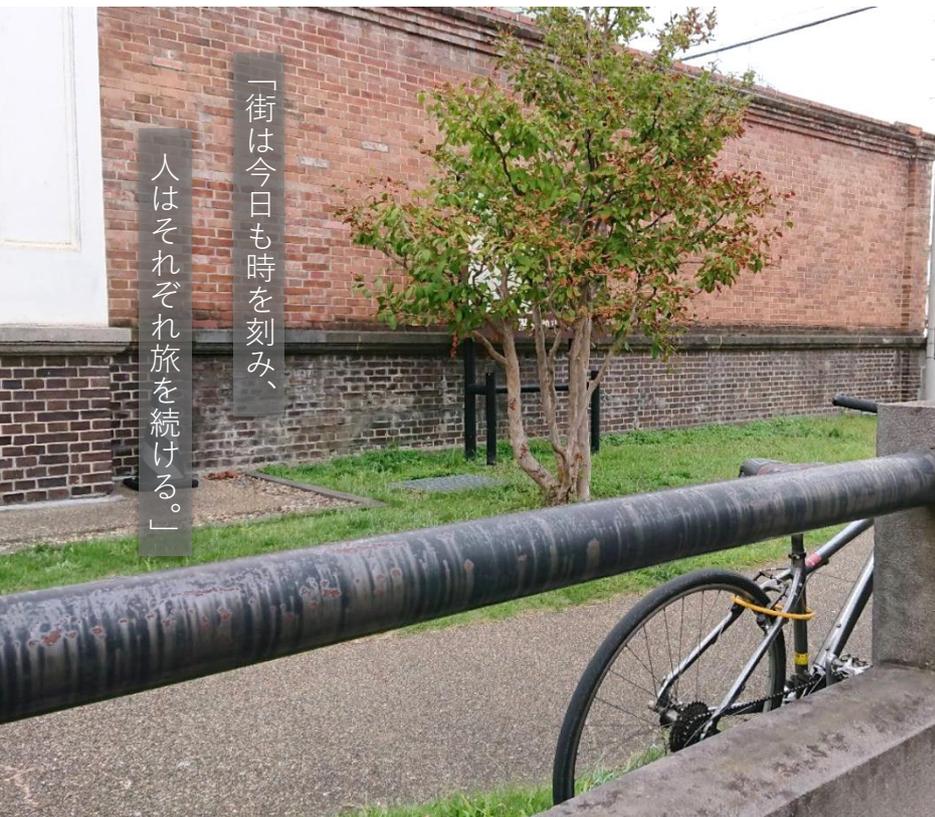
る筈です。何でもいいですからそういう本を手にとることから始めたらいいと思います。図書館以外でも本屋で興味のある本を見つけたらとにかく買って帰って本棚に並べておく。その時は読まなくても何かの折にふと読んでみようと思うこともあります。そして読んだ本はそのまま本棚に並べておく。そうすると背表紙を見ただけで「ああこの本にはこういうことが書いてあったな」と思いつくはずですが、本との付き合い方は人それぞれですが、自分を高めてくれる親友に出会うのと同じではないかと信じています。

病理診断学講座 Web サイト

<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/~anatopathol/>



「つがる点描」コーナーには、津軽の美しい風景に太宰治の「津軽」の一節や黒瀬教授のエッセイが添えられた写真集があります。ぜひお楽しみください。



ひとたびページをめくって、ハッとさせられた。見慣れたいつもの街風景、ただ通り過ぎるだけの路地裏……でも、そこには今日も「誰かの物語」が存在している。

よく知っている場所のはずなのに、息をのむほど鮮やかな色彩で広がる路地裏の写真。写真に添えられた「旅の男」と「街の女」の心模様が、読み進めるほどクロスしあい、まるで映画の一場面のように私に迫ってくる。

「街は今日も時を刻み、
人はそれぞれ旅を続ける。」

いつもの帰り道、今日はちょっとゆっくり歩いてみようかな。

道端におかれた自転車、レトロな朱色の郵便ポスト、橋の下の水面に映る行きかう人々。どこからともなく飛んできたシャボン玉は、誰かの願いが…ほら、ふわり。

写真集を小脇に抱え、いつものまにかレンズ越しに「誰かの物語」を探している自分がいた。

本を持って出かけよう

…… 第2回 ……

『弘前路地裏散歩』を持って

『弘前路地裏散歩』

弘前在住の写真家・八木橋廣氏による写真集。弘前に住んでいる人なら見慣れたいつもの風景に、短編小説が添えられ、まるで映画を観ているような雰囲気になります。

『弘前路地裏散歩』(津軽弘前 2)

八木橋廣・白神書院、2015年

A748 || Y15ts || 2 (地域志向コーナー)

附属図書館 地域志向コーナー

弘大図書館本館1階には、弘前市や青森県をテーマにした資料を集めた「地域志向コーナー」があります。





へば図書館さ行くべ 第四回

前回までのあらすじ

レポートのために、初めて図書館で本を借りたサキ。無事にレポートを作成することができたが……

「で、できた……」

レポートのデータを送信して、そのまま机の上に倒れこんだ。

「データだけのメモリに入れておいて、本当によかった〜」

急に自分のノートパソコンの電源が入らなくなったときはどうなることかと思っただけ、データを保存していたメモリだけを図書館に持ち込んで、なんとか推敲とデータ送信ができた。「図書館の3階にノートパソコンがあるなんて知らなかったな〜」

PCサテライトというらしい。辺りを見回すと、私以外にも何人かが真剣な顔でレポートを作成したり調べ物をしてたりしている。「ほら、ここで喋ってれば他の人さ、迷惑だはんで、行くべ」

「ありがと、ヒロ。ここ教えてくれて」「バイトさ行く日とかパソコン持ち歩きたくないはんで、たまに使ってるん

だ」

それに静かだし、余計なものが無いから集中できる。家だとい掃除したり雑誌見たり違うことをしちゃうからなあ。

「そういえばここ、印刷もできるんだね」

部屋の真ん中には大きなプリンターが2台置いてある。だいたいのレポートはデータで送るけど、たまに紙で提出しないとイケない課題もあるから、今度使ってみようかな。

◆ ◆

「あ、ちょっと待ってける？雑誌見るはんで」

階段で2階に下りたところで、ヒロは急に足早になった。

「図書館に雑誌なんてあったの？」あわててついて行くと、壁際の棚に

ずらっと雑誌の表紙が並んでいた。

「えつ。雑誌ってこんなにあるんだ！」歴史、法律、化学、文学、数学、地域の情報誌……すごい、英語で書かれた雑誌もある。

「私、ファッション誌や漫画しか読んだことなかったなあ」

「学術雑誌はその分野の最新の研究がわかるはんでな。興味がある分野だけでも読んでみれば？」

「んー。じゃあ、これとか？」試しに1冊手に取ってめくってみたけど、ちょっと難しい。

「バックナンバーはこつちな」雑誌の表紙が立かけてある板を持ち上げると、その中には雑誌が何冊も

積まれていた。なるほど、こうやって保管してるんだ。

「ねえ、これも借りられるの？」「バックナンバーだば1週間借りられるよ。最新号は無理だばって」

「……ちょっとチャレンジしてみよう

かな」

今までの私だったら、こんな難しいの読めないって逃げてたと思う。でも、今はちよつとワクワクしている。最初はレポートを書くためだけに図書館に来たけど、ここにはまだ、私の知らないことがたくさんある。

「ここにある雑誌は今年の分。もつと古い分は書庫さあるはんで、今度行ってみるが？」

「うん！」

次回 最終回





Library's Half Year 2021.6~2021.11



6月	6/4 令和3年度電子ジャーナル・データベースの利用に関するアンケート調査(～6/17)
	6/9 令和3年度第1回附属図書館運営委員会・第1回図書選定委員会
	6/21 令和3年度第1回広報委員会
	6/22 「聞蔵II」アクセス数拡大50人(～7/19)
	7/1 学外者への貸出(出納式)再開、市内4大学の相互利用再開
	7/10 第7回Book Hunting(～7/11)
	7/15 学生用閲覧雑誌見直しアンケート実施(～7/28)
	7/16 青森県高等教育機関図書館協議会総会
8月	8/2 図書館福袋(夏)(～8/11)
	8/17 蔵書点検(～9/24)
	8/31 東北地区大学図書館協議会研修会
9月	9/16 貴重資料保管室燻蒸
	9/21 令和3年度第2回附属図書館運営委員会
10月	10/13 後期図書館スタッフ勤務開始
	10/18 「ヨミダス」アクセス数拡大100人(～1/17) The Japan Times Digital(～11/17)・Academic Search Ultimate(～1/16)トライアル
11月	11/1 利用者アンケート実施(～11/19)
	11/12 POPイラスト受賞者発表
	11/30 豊泉第54号Web公開

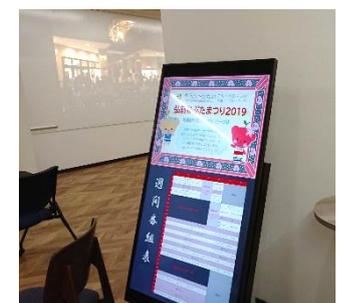
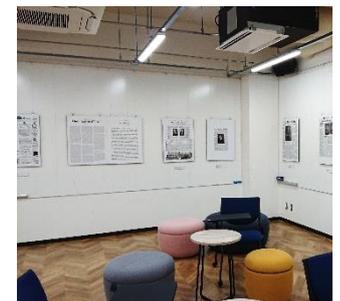
附属図書館では感染症対策のため、昨年度からサービスを縮小・制限していますが、7月より制限を一部緩和し、学外者への出納式での貸出を再開しました。また、市内4大学に所属する方々のみ、入館利用を再開しました。

昨年度前期には行わなかった、基礎ゼミガイダンス、蔵書点検、Book Huntingも開催し、少しずつ平常に戻ってきている感があります。

また、学生用雑誌見直しのためのアンケート調査を行い、評価の低かった4誌の購入を中止する代わりに4誌を新規購入することになりました。新規購入の雑誌は2022年1月から購読予定です。

8月には図書館サポーターの発案で、「図書館福袋(夏)」を開催しました。図書館サポーターおよび職員と時間外アルバイト有志が、それぞれ考えたテーマで3～4冊の図書を選び、POPやイラストでテーマを表現しました。全部で17個作成し、期間内にすべて貸出されました。福袋は今後も行うことを検討しています。

また、The Japan Times Digitalのトライアルに伴い、アカデミックコモンズにおいて「ジャパンタイムズの歴史に触れる」と題したパネル展示を行いました。アカデミックコモンズでは、BBCニュースを流す以外にも、所蔵するDVDの上映や弘前ねぷた運行の動画上映なども行いました。オンラインセミナーや表彰式、取材スペースなど、学内の様々なイベントにも活用されています。



寄贈図書紹介

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書資料をご紹介します。(令和3年4月～令和3年9月受贈分)

寄贈者	書名	著者・編者	出版社	冊数	所蔵先
安藤 喜一(名)	カマキリに学ぶ	安藤喜一	北隆館	1	本館1
今泉 忠淳(医)	写真集 酒蔵50景 第4集	今泉忠淳	北方新社	2	本館1/分館1
佐藤 和之(名)	災害基礎語彙集成:「やさしい日本語」カテゴリI対応:学術研究助成金(科学研究費(基盤研究C)2017-2021年度南海トラフ地震に対応した外国人住民への「やさしい日本語」適応の研究)(改訂版)	弘前大学人文社会科学部(旧)社会言語学研究室ゼミ生	弘前大学人文社会科学部(旧)社会言語学研究室	1	本館1
白石 壮一郎(人)	地域社会学卒論集:leavetheherdbehind(2015-2016)	白石壮一郎	弘前大学人文学部社会行動コース	1	本館1
白石 壮一郎(人)	Youths in struggles: unemployment, politics, and cultures in contemporary Africa	Wakana Shiino and Ian Karusigarira	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	1	本館1
白石 壮一郎(人)	地域研究方法論の総合的検討	白石壮一郎 [ほか]	弘前大学人文社会科学部	1	本館1
菅原 亮平(農)	バタの大発生の謎と生態	田中誠二	北隆館	1	本館1
多田 恵実(教育推進)	Leben in Tsugaru: Deutsch mit lokalen Themen	多田恵実 [ほか]	弘前大学イングリッシュ・ラウンジ	1	本館1
多田 恵実(教育推進)	Tsugaru life: English through local topics	多田恵実 [ほか]	弘前大学イングリッシュ・ラウンジ	1	本館1
多田 恵実(教育推進)	楽しく話しておもてなし英語: わんどの弘前を外国人に紹介するべ	Berman, Shari Joy, 多田恵実	弘前大学イングリッシュ・ラウンジ	1	本館1
長谷川 成一(名)	書物のなかの近世国家: 東アジア「一統志」の時代	小二田章, 高井康典行, 吉野正史	勉誠出版	1	本館1
弘前大学医学部眼科学教室(医)	中澤満教授退任記念業績集	弘前大学医学部眼科学教室	弘前大学医学部眼科学教室	2	本館1/分館1
弘前大学出版会	暗号技術を支える数学 = The mathematics behind cryptography (第2版)	長瀬智行, 吉岡良雄, 別宮耕一	弘前大学出版会	1	分館1
弘前大学人文社会科学部地域行動コース(人)	短歌から読み解く療養所の生: 機関紙『甲田の裾』と松丘保義園: 調査報告書; コピットさんと私: 短歌ポर्टフォリオ	弘前大学人文社会科学部地域行動コース	弘前大学人文社会科学部地域行動コース	1	本館1
弘前大学人文社会科学部(人)	2018年度, 2019年度, 2020年度アメリカ研究ゼミ卒業論文集	弘前大学人文社会科学部	弘前大学人文社会科学部	各1	本館3
帆苺 基生(教)	最後の文人石川淳の世界	田中優子 [ほか]	集英社	1	本館1
帆苺 基生(教)	留学生のための日本文学入門	青山学院大学文学部日文学科	和泉書院	1	本館1
山田 巖子(人)	青森県俗信辞典	佐々木達司	人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」	1	本館1
ラウシュ・アンソニー(教)	Resolving the contemporary tensions of regional places: what Japan can teach us	Anthony S. Rausch	Anthony S. Rausch	1	本館1

※敬称略。寄贈者名の50音順。カッコ内は寄贈者所属。

(名): 名誉教授、(医): 医学研究科、(人): 人文社会科学部、(農): 農学生命科学部、(教育推進): 教育推進機構、(教): 教育学部

冬休みのお供に、
図書館福袋はいかがですか？
中身は借りてからのお楽しみ！



図書館 福袋

12月下旬
実施予定

袋に添えられたPOPが中身のヒント。今まで手に取ることのなかった本との新たな出会いがきっとあるはず。

図書館
福袋とは

年始の初売りでおなじみのアレを図書館風にアレンジした借りる福袋です。

図書館福袋の詳細は2021年夏に実施した第1弾のブログ記事をご覧ください。



◆編集後記

「夏の福袋」には私たち広報委員も参加しました。中身を明示せずに、選んだ本のテーマを表現するのは、意外に難しいと感じました。次回はもう少しキャッチーな袋を作りたいです。(参考調査担当 Saito)

コンテストへの応募や館報へのご寄稿を通して、魅力的な本をたくさん掘り出しただけではありません。この館報が、また誰かの新たな本との出会いにつながっていただければ幸いです。(雑誌情報担当 Suda)

今回の表紙は図書館サポーターの方に撮影してもらいました。図書館サポーターについてもっと詳しく知りたい方は、ぜひ左下のブログも読んでみてください。(参考調査担当 Maru)

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第54号

発行日：令和3年11月30日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会
〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3162

FAX 0172-39-3171

表紙の写真

R3 図書館サポーター 大槻 映玲永 撮影



◆◆◆◆◆図書館員ちよこっとコラム◆◆◆◆◆

うだるような暑さが懐かしくなるほど秋風が身に染みる季節となりました。今年の夏は、コロナ禍の中で決行された前例のないオリンピック開催やワクチン接種など特別記憶に残る夏でした。

ところで、弘前の夏の風物詩と言えば、弘前ねぶた祭りですが、もう一つ挙げるとするなら初夏から秋まで(5月~10月初旬)開催される“宵宮祭”ではないでしょうか。この季節には、毎日のように市内のどこかの神社で行われるお祭り。その数の多さには驚きます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通常通りの開催ができなかった宵宮もありましたが、例年は60以上の神社で“宵宮祭”が行われ多いところでは80店もの露店が並びます。自宅近隣の品川町にも古くから「弁天さま」として親しまれている神社があります。普段は、静かな神社ですが“宵宮祭”の日には獅子舞や津軽神楽など様々な奉納行事が行われ沢山の人で賑わいます。宵宮の夜、窓の外から笛や太鼓・爆竹の音が聞こえて来ると、今年も夏が来たな〜と実感します。この神社は大同2年(807年)坂上田村麻呂将軍が大野

という地に信仰していた弁財天を祀り創建したと言われる由緒ある神社で境内には湧水があり龍蛇神(白蛇)も祀られています。(水に深い関係のある神様で辰巳生まれの守護神としても信仰を集めているそうです)4歳になる娘とよく行く散歩コースの神社でもあり、境内には大きな桜の木があり春には見事な桜の花を愛でることができますし、暑い夏の日には冷たい湧水で涼を取ることもできるちょっとした身近な癒しの場でもあります。

また、弘前は寺院の多い町です。藩政時代に弘前城築城に際し、各地から移され城を守る要として創建された寺院。禅林街の三十三ヶ寺や禅林街の突き当りには津軽家の菩提寺である長勝寺、最勝院の五重塔は国指定の重要文化財としては日本最北端に位置しています。また、城の西側には鶴亀門と称されることで有名な誓願寺があるなど、とても興味深いです。弘前はふらっと歩けばすぐそこに日常に溶け込んだ史跡に触れることができる街であり、それがこれからもずっと住み続けたいと思わせる弘前の魅力なのかもしれません。(しらさか きょうこ)

【弘大図書館公式 twitter】

弘大図書館に関する情報を発信しています。お気軽にフォローしてみてくださいね。「#弘大図書館」のハッシュタグで、「弘大図書館のここが好き!」「弘大図書館でやってほしいこと」「豊泉読んだ」などのご意見・ご感想を募集中!



@HirosakiUnivLib

【弘大図書館ブログ】

図書館の便利な使い方などが載っています。ぜひご活用ください。図書館サポーターの学生も記事を執筆しています。

<https://hulib.hatenablog.com/>



図書館ブログ